

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和2年度第3回西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
開催日時	令和3年1月22日(月) 午前9時30分～11時30分
開催場所	播磨内陸生活文化総合センター
出席委員の氏名又は人数（敬称略）	瀧川光治、鈴木正敏、松尾寛子、古家幹也
欠席委員の氏名又は人数（敬称略）	閑念勝代
出席職員の職・氏名又は人数	教育長 笹倉邦好 教育部長 森脇達也 幼保連携課長 正木万貴子 幼保連携課主査 藤原敬章 幼保連携課（幼児教育センター）藤原幸恵 幼保連携課（幼児教育センター）前田玲佳 学校教育課教育研究室主幹兼室長 衣川正昭
公開・非公開の別	非公開
非公開の理由	個人情報に配慮するため
協議又は協議事項	(1) 12月の視察訪問について (2) 今年度事業の公表について (3) 令和3年度就学前教育推進事業について
会議の記録	
発言者	内 容
事務局	1 開会 委員の出席は4名
教育長	2 あいさつ
事務局	(資料確認) この後の進行は、委員長にお願いいたします。
委員長	3 協議事項 (1) 12月の視察訪問について 事務局から説明をお願いします。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 視察訪問資料（各園）次年度に向けての取組の方策 ・資料2 年齢ごとの保育内容の質問と助言（まとめ）
委員長	<p>では、各委員から訪問園の報告をお願いします。</p>
事務局	<p>報告される園の雰囲気共有したいと思い、訪問時の園の写真をパワーポイントで映します。</p>
各委員	<p>～全体的な感想・意見～</p> <p>昨年度初めて視察訪問し助言した時と比べて、受け入れる側も慣れてこられた印象で、自分たちで解決していきたいことや悩んでいること等への問題意識があると感じた。訪問時資料の取組の状況や質問についての記入も具体的でしっかりしてきており、その背景には事務局が用意した書き方サンプル集や経験から記入のポイント等が先生方に見えてきたのではという印象を受けた。</p> <p>受け止め方が安心されていて、アドバイスをすると速やかに響くような感覚もあった。今後も訪問を続けていくとアドバイスを受けさらに積み上げていくことができると感じた。</p> <p>この事業をすることで各園の先生の意識が明らかに変わってきているなと感じた。例えば当番活動で5歳児が他学年の保育室に行き使い終わったタオルを集めていて、年長児が自覚をもって活動できていた。小学校でも行っているリーダーシップをつけるような取組を園でもされていることに対して大変嬉しく思った。</p>
各委員	<p>～各園の感想・意見～</p> <p>環境作りの工夫について、広い保育室でコーナーをどう作るのかどんな遊びを提供するのか等意識されていた。当日助言したことを含めながら今後の具体的な取組の方策を記入されていたので、助言内容がある程度伝わっていると思った。</p> <p>いろんなことを積極的に自分たちで振り返りながらやろうという姿勢が見えた。職員間で、話し合いを積極的に取り入れているので自立してやっていけると思った。</p>

保育室で保育者と一緒に環境を考え、実際に動かすことができ、リモートではなく現場に行けて良かったと思った。保育環境をパソコンで他園の写真を見ながらイメージを伝えると先生方にも伝わりやすかった。

昨年度の助言を土台にしながら、さらに深く取り組んでいくことを考えられていた。取組の状況として、自分たちの保育を振り返って記入する時に、こんなことをしている、あんなことをしているとしっかりと捉える力がついてきていると感じた。

保育の中での改善点や問題点というのを常にもちながら保育をされていた。しかし、こうしてみようという具体的にはつながっていないクラスもあったので、助言を伝えると早速園にあるおもちゃや保育環境を活用し実践されていた。少しのアドバイスで変わっていき、環境の調整を自園でできる力のある園だと感じた。

先生方の強みを生かした適切な配置がされていた。横のつながりや新人とベテランの先生との組合せ、また職員間での園の取組が、以前より感じられるようになってきた。ただ、新人の先生は一生懸命保育を進めているけれど、経験年数によって気付きや見える保育の視点が変わってくるので、保育者同士のアドバイスがもう少しあってもいいと思った。ベテランの先生方は随分力があるので、園内で保育を見せ合うだけでも育ちが見られるのではと思った。

低年齢の保育で表情が分かるよう必要に応じてフェイスシールドを活用し、口元が見える工夫がされていた。また、子どもたちの遊びや遊びの深まりを考えて、視覚的や聴覚的にも刺激するような環境を整えてあるクラスもあった。

昨年度と同様に、5歳児が話し合い活動を積極的に取り入れていた。絵本の内容からグループで感想や意見を出して、代表で発表するという保育活動だったが、担任が幼児の実態や興味等に応じて保育しているからこそこのような取組であったり、遊びを通して学びの芽生えを作ったりすることができるのだと思った。

4歳児の折り紙の制作では、大きな折り紙やホワイトボードを使い、先生が見本を見せながら作っていた。子どもたちが一生懸命見

	<p>て聞いて丁寧に折っていて、改めて見る聞くことの積み重ねの大切さを感じた。</p> <p>制作物を見ると3歳児のハサミの切り方は、ギザギザでハサミの先しか使っていないが、4歳児はきれいにカーブが切れている。ハサミの奥を使うという指導支援がされていると思った。さらに5歳児になると硬いダンボールも切っていて、ハサミの使い方ひとつにしても発達に応じて指導されていると感じた。</p>
各委員	<p>～今後の課題～</p> <p>自分たちの保育を振り返り、実態を捉えていく力については、今年度1回の視察訪問では伝えきれなかった。一緒に考える面が不十分だった。</p>
	<p>同年齢のクラスで、おもちゃの分量や種類や視覚支援の掲示量に差があった。子ども達の学びの差にも結びついていくので、横の連携を図りながら保育を進めていけるよう助言した。</p>
	<p>備品の配置について工夫が見られたが、クラスによってはおもちゃを自由に取れる環境になっていなかった。保育室にもう少しおもちゃを入れてはとアドバイスした。</p>
	<p>奇声を発する幼児がいるクラスでは、居場所の工夫やクラス全員が集団として保育を受けられるような環境作りについて助言した。保育者同士の育て合いという点では先生の力量差が見られた。発達に応じた段差というのを保育者の力量に任せてしまわず、園全体で考える必要があると感じた。</p>
委員長	<p>事務局で参加された学校教育課からお願いします。</p>
事務局	<p>2園だけの参加でしたが、特に特別支援に関する困り感や保護者の理解や説明について等なかなかなか難しいと聞いています。今後も学校教育課の支援で小学校との連携を進めていきたいと思います。今年度本来ならば8月に小中連携事業の中で小学校の担任の先生方が各園に行く予定でしたが、コロナの関係でできませんでしたので、その点についても視察訪問の項目の中で保幼小の連携をどの園も望</p>

事務局	<p>んでおられますし、さらに進めていきたいと思います。</p> <p>(欠席委員からの意見を代読)</p> <p>集団の中で本人や担任の感じる困り感に対して、保護者になかなか理解してもらえない。家庭や個別の対応では大丈夫で困り感が少ないため、集団である園でのしんどさが浮き彫りにならず、伝えているがうまくいかないののでどうしていったらいいかという相談が多くあった。また、日々先生方は本当に忙しいので、話し合いをもちたいができなかったり、園で共有していくべきところが担任レベルで止まってしまっていたりするのではと感じた。今回の視察訪問がきっかけで、その面が少し改善した園や次につながった園も中にはあった。</p>
委員長	<p>委員から各園の状況を報告いただくことで情報共有ができたと思います。昨年度より改善し、サイクルが回り始めているというような成果が見られたと思います。</p> <p>改めて資料2をホームページにも公表することも踏まえて意見等をお願いします。</p>
委員	<p>まとめが年齢ごとで分かりやすく、他の委員の助言も分かるのも個人的には嬉しいです。ただ、委員からの報告を聞き考えたのですが、委員会で訪問できるのは、年1、2回です。今後、園独自の研修体制や職員間で話せる時間と保育についてアドバイスし合える組織作りが必要で、次への課題ではないかと思います。園でその体制ができていくと、訪問前と訪問後がつながり、進んでいくのではと思います。園内研修につながるきっかけとしてこの資料を活用できるような文言を入れ、市全体で研修体制作りにも力を入れていくということを提案されたいと思います。</p>
教育長	<p>資料や委員の意見から、昨年比べて現場が変容している、少しずつ前進し、聞く姿勢もできつつあると言っていただき良いなと思います。訪問内容では、保育環境や個々に自由に手に取るおもちゃのこと一つにしても具体的に教え示していただき、考えて頑張っていきたいという前向きな話も見られますので、もうしばらくは時間がかかるかもしれませんがお願いいたします。小・中学校に学力向上ウイークというのがありまして、市全体を上げて教師の力量を上</p>

	<p>げるといふ目的のために、菊池省三先生とアンバサダー契約をし、指導技術を学び、力量を全職員が共有し、レベルアップを図る取組をしています。菊池先生のポイントは、褒めて育てる、認め言葉を授業で多くかけられます。今聞いていて課題が具体的に見えてくると、これから保育・教育をされる若い先生方が少しでも自信を持つために、褒めて育てていかなければならないと思いました。是非そういう視点に立っていただき、こうすればこう伸びるという指標になるような評価を公表として出していただいで、園に現場の頑張りが届くといったものにしていただければ嬉しいと思います。私は0歳から15歳までつなぐ教育という思いを持っておりますので、今後そのあたりも示唆いただいで意見をいただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>経験年数や保育者のパーソナリティの部分もあると思いますが、センスや力量がある保育者が各園、複数名いらっしゃいます。その保育者がリーダーとなって動き、新人の先生に教えたり、保育内容を相談し合えたりする場面や力を発揮できるような環境があればいいと思います。全然だめだという園はないですが、先生方の力量や園の方針もあり、例えばおもちゃを自由に取れるような環境を作っているのかどうか。自由に取った方がいいという委員の助言が、園に浸透していくともっと良くなるのではないかと感じました。</p>
<p>委員</p>	<p>資料2にある内容は、「私のクラスでも同じだな」「これは取り入れられそう」等参考になり、最終的に保育の質の向上につながるのではないかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>この資料は共通の土壌を作るため、そして各園それぞれの保育者が受けた助言を共有するためのものであり、さらに教育長が話されたように、昨年度から今年度良くなった部分を伝え、「良さを尊重する・認める」上で、この資料をどう活用してほしいかを記入し、経験年数豊かで、また視野の広い保育者は、この内容を当たり前と思うけれども、「こんなことがあるんだ」と初めて知るような方もいるかもしれません。そこで、園内で共有や10分、15分の時間でも話し合ってみようとなれば、先ほど意見に出ていた学年・クラス間の価値観の共有が備わっていくと思います。ただ単純に園に報告、公表されたということで終わらずに、この資料を是非園内で活用してほしいと感じました。</p>

委員	<p>本当にこの1年間努力されていると感じました。昨年度助言した内容を生かし、どこに力を入れているのかが見える保育をされていました。園内の共有や研修ができていければ、より良くなっていくと思います。</p>
委員	<p>組織としてミドルリーダーに任せるという分散型がちゃんと機能していく園になっていければいいですね。市の方から市全体でそういう力を育てるのが良い組織であることを伝え、ミドルリーダーを育てるシステムをどうするか、各園でそのための工夫をどうしているかというような面が来年頃でき始めたら嬉しいと思います。</p> <p>ミドルリーダーは、まず新人の悩みや思いを聞いてアドバイスして、教育長が言われたように認める。そこから、ミドルリーダーがアドバイスすると全体が本当に上手くいくようになるのです。園内で話し合える機会、組織作りが大切なので、この資料も活用できればいいですね。</p>
委員長	<p>(2) 今年度事業の公表について 事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3 コロナ禍での各園の取組 ・資料4 視察訪問アンケート（案）
委員長	<p>先に資料4のアンケートについて、「こんな意味があるのだ」とか「こんなところが良くなった」等を公表することによって、この事業が意味のあるもので、現場の役に立っていると市民の方々にも受け止めてもらえるのがよいのではないのでしょうか。例えば、訪問内容が大変良かったや良かったの数値や比率はいらないと思いますがいかがですか。</p>
委員	<p>同意します。</p>
委員長	<p>次に資料3について意見をお願いします。</p>
委員	<p>「(1)日々の感染予防や対策面」では、本当に重労働ですし非常に気を使ってされているということが分かります。「(2)行事の見直しやもち方の工夫」では、子ども達は行事をなくすと目的意識がなく</p>

	<p>なってしまう。どの園もいろんな工夫をしながら何とか行事だけはやり遂げたいというすごい努力が見られると思いました。「(3)保育環境や保育の工夫・教職員の資質向上」では、リモート等を取り入れ、密になることを避けつつも研修を止めずにされていると思いました。「(4)保護者との連携の取り方」も本当に大変かと思いません。小学校は校区が決まっていますが、園は色々な所から子ども達が来ています。その中でポストインをしようとなると本当に大変だと思いますが、これをマイナスではなく、保護者と連携できる、触れ合える、話ができる機会が増えたというプラス面で捉えることも非常に大事なことはないかと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>それぞれの園がずいぶん工夫されていると思いました。(1)では、昨年度より消毒やパネルを立てる等で業務量が増えているのにも関わらず丁寧にされている。(2)では、行事に対する先生方の気持ち、何とか子ども達や保護者のためという思いが伝わってきました。(3)では、保育の中身を随分考えてされていると思いました。(4)では受入れ時の保護者への対応や4、5月の登園自粛の時等、先生方も悩まれたと思いますが、子ども達のことを考えて何をすべきか、今までどおりにいかないけれども今まで以上に連携を図っていくための工夫が見て取れました。</p>
<p>委員</p>	<p>(1)感染予防は、色々工夫されて、確かに業務量は増えていますが努力されているのがよく分かりました。(2)行事の持ち方に関しては密にならないようにされていますが、これを見ていると保護者の方の協力がなくてできなかったと思いますので、園だけでなく皆で頑張っているところが評価できるのではと思いました。(3)資質の向上に関しても研修を止めないということがされていて、状況が変わってきたからこそこの部分がより大事になってきているのではと感じます。(4)連携の取り方は、これまで以上に伝えたい気持ちが高まったことが分かりました。</p>
<p>委員長</p>	<p>これまでの意見を踏まえて全体的には、文章の冒頭に「乳幼児期は感染リスクの中でも接触感染や飛沫感染の危惧はされるけれども子どもの健全な発達を考えた時には、子どもがくっついて密になるということは当たり前のことである。現場では配慮しながら色々工夫して取り組んできている」というような内容があるといいと思い</p>

	<p>ます。委員からの意見を改めて後日事務局へ提出して、資料に追記の後、公表するということよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>同意します。</p>
委員長	<p>(3) 令和3年度就学前教育推進事業について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>・資料5 令和3年度のスケジュール (案)</p> <p>(欠席委員からの意見を代読)</p> <p>特別支援については、時間や方法を統一するのはとても難しいです。なぜなら現場訪問では、まず担任と面談をする中で先生方が気付きであったり、特性に対する先生の視点や見え方を伝えたり、関わる姿勢等の相談に応じています。これまでどおりの方法に合わせてその後のつながりとして園に応じて対応したいと思います。園に希望を取るのも一つの方法かと思います。</p>
委員長	<p>委員会の開催予定日ですが、開始時間は3回とも15時から予定したいと思います。次に視察訪問については、今年度は1回の訪問となりましたが、来年度は次に巡回を予定している園を訪問することとして、訪問日程についてもよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>同意します。</p>
委員長	<p>確認ですが、訪問は今年度のように緊急事態宣言や感染者が増加した場合以外は予定どおり2回でいいと思います。訪問時間については、案が2つありますが、これは園に希望を取るということですか？</p>
事務局	<p>園に希望を取りますが、委員の都合がよければ9時から15時まででお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>クラス数の多い園は、次々になってしまいます。2年間実施し、1学年1クラスの園と2クラスの園と差があると感じます。</p>

委員長	<p>では、基本的には案②の5時間の訪問で、園の都合でどうしてもならば案①の3時間にします。支援の必要な幼児に対しては、委員が希望される方法でいいのではないかと思います。</p> <p>次に、小学校関係者の参加について意見ををお願いします。</p>
委員	<p>就学前教育・保育の質の向上というものと、小学校関係者の参加については目的が違うと思います。どうしても小学校関係者は、自分の学校にどのような支援の必要な子が入るのか、就学前教育は、どんなことをしていて小学校とのつながりはどうかという視点で見ますので、返って現場を混乱させるのではないかと思います。それよりも、夏休み等を利用しそれぞれの学校が園にコンタクトを取り5歳児の様子を参観する方が園の負担にならず、また学校関係者にとっても意味があるのではないかと考えています。小学校でも就学前教育というのをきっちり分掌として位置付けていきたいと思っています。</p>
事務局	<p>小・中の中学校ブロック連携事業も行いますので、連携の活動の一つに園の訪問を必ず入れるように位置付けていき、園と学校とお互いの共通認識の上で進めていきたいと思っています。</p>
委員長	<p>事務局で調整をしていただければと思います。</p> <p>最後に、西脇市就学前教育・保育カリキュラム浸透のための方策について、事務局から説明を聞いて、確かに作成したものを活用する機会をどう作っていくのか、とても大事なことだと思います。</p> <p>次年度に向けて、案1のキャリアアップ研修の中に取り入れることと、案2の全園を対象にカリキュラム研修会を別途行うことについて、もう少し事務局の考えを聞かせてください。</p>
事務局	<p>キャリアアップ研修に参加される人数が各園に1人か2人という状況なので、再度意識してもらえるための研修が必要だと考えた案です。職員体制がギリギリで1日や半日研修の参加は難しくても、キャリアアップ研修の中で1時間でもこの時間は来てくださいますとすれば園の中で可能な人数が来てもらえるのではと考えています。</p>
委員長	<p>市のカリキュラム説明会というより、例えば指導計画の立て方、現場の先生方の困り感や保育の工夫、記録についてや写真を使った</p>

	<p>子どもの姿の読み取り等と市のカリキュラムを入れ込んでいくという方が当事者意識として参加しやすいと思います。</p>
委員	<p>カリキュラムを浸透させることを考えると、キャリアアップ研修の中でしますので、そこにプラスでミドルリーダーの人や学びたい人がこの時間だけ参加してくださいというのがいいと思いました。</p>
事務局	<p>参考にさせていただいて検討したいと思います。</p>
委員長	<p>それでは、これで議事は終わらせていただきます。</p>
事務局	<p>4 次回開催予定</p> <p>瀧川委員長、委員の皆様ありがとうございました。次回の会議の予定ですが、4月26日（月）午後3時から予定しております。本日の協議内容も踏まえて来年度事業の具体的な方策について協議いただきたいと考えています。</p> <p>閉会の前に教育部長よりご挨拶を申し上げます。</p>
部長	<p>あいさつ</p>
事務局	<p>5 閉会</p> <p>以上をもって、本日の会議を終了します。</p>